九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[30]文學研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2556570

出版情報：文學研究. 30, 1941-12-25. 九州文學會
バージョン：
権利関係：

文學研究筆者別索引

（筆者はABC順による、括弧内は輯號を示す）

春日政治

片假名交り文の起源に就いて（一）
古訓漫談（二）
『小學方言講義』より（四）
高野山にて觀たる古點本一二（七）
宇治拾遺物語の一本より（九）
金光明最勝王經註釋一本の古點について（一四）
法王帝說續考（二一）
聖語藏御本央掬麗羅經の字音點（二三）

片山正雄

文學科學概說（一）

小島吉雄

明治初期の歌論（一）
宗祇の晩年（三）
新古今和歌集の撰集態度と撰集事業（五）
所謂石津本新古今和歌集に就いて（八）
連歌に於ける美的情調（一一、一二）
新古今集歌風と註釋の問題（一八）
春日博士所藏二十一代集中の新古今和歌集に就て（二三）
後鳥羽院の御文學（二五）
新古今集寫本に於ける撰者名の頭書について（二八）

小牧健夫

ヘルデルリーンのエトナ劇斷片（二）
クライストの『公子ホムブルク』の一問題（六、八）
銀鈴（一一）
ゲーテの從軍記（一五）
ヘルデルリーンの半神觀（二二、二四、二六）
萊花行（二三）
クライスト隨想（二八）

松枝茂夫

鏡花緣の話—異國廻りを中心として—（二六）
蝶菴居士張岱（二八）

目加田誠

塡詞選釋（一三）
民國以來中國新文學（一四）
雅に就いて（二〇）
白樂天の諷諭詩（二三）
邠詩考附東薪考（二五）
詩經に詠はれた自然界（二八）
陳積甫傳（二九）

中山竹二郎

『貧者の友』ウキリアム・ラングランド（一）
イギリス中世の宗教劇（五）
イギリス古劇の詩形について（九）
チョウサアと現代英語（一三）
散文韻律について（一九）
チョウサアに於ける措辭的特徴について（二二）
ウエイリの英譯『源氏物語』（二三）
チョウサアその生涯と性格（二七）

成瀨正一

十八世紀に於ける文藝サロン（二、三）
新舊兩派の文藝論爭（七）
モンテーニュと東洋の悟道（一六）

野上豊一郎

旅行報告書（一六）
杉田玄白とその周圍の人たち（一九）

小野島行忍

ザツカ・パンハ・スツタンタ（三）
リツ・サンハーラ（一〇、一一、一三）
譯梵詩メーガ・ヅータ散文譯（二八、二九）

笹月清美

天平八年の遣新羅使一行の歌（一三）
古事記の文藝的性質に關する認識の發展（一七）
文藝活動の機構（二一）
本居宣長における道と文藝（二三）
語意考の成立過程を示す二三の傳本について（二六）
本居宣長の國語研究（二九）

佐藤通次

世界の極性とゲーテの『ファウスト』（一）
雅歌（四）
生の悲劇性（八、九）
『思ふ』と『考へる』（一〇）
數・性・格と體驗（一四、一六、一七）
『老』と『親』とについて（二一）
創世神話とわが民族の原體驗（二三）
『生む』の論理的構造（二五）
『超人』の事行論的解釋（二七）
表現の二契機―『見る』と『生む』と―（二九）

遠藤誠一

『フィガロの結婚』とボーマルシェー（一）
ユージェーヌ・ラビッシュの喜劇（六）
スクリーブの功罪（八、九、一一）
コメディー・フランセーズの沿革（一四、一五）
十九世紀中葉以後に於ける佛蘭西風俗劇（一八、二五）
日本に於けるコメディー・フランセーズ（二三）
モリエールの結婚（二七）
マリヴォー覺書（二九）

須川彌作

精神的孤獨感に就いて（一九、二〇）
マレルブ及びその周圍（二四）

高木市之助

吉野の鮎（二七）

田中晃

表現の構造（一六）
萬葉歌人の國家思想（一八）
行爲と哲學（二〇）
日本的現實主義と「もの〻あはれ」（二三）
生成の根據としての自然（二五）

豊田實

日本に於けるシェイクスピア紹介の歴史（一）
英吉利漂流邦譯考（四）
芥川龍之介とエドガ・アラン・ポオ（七）
基督教聖書和譯の歴史（一二）
故坪内博士の「英文小學讀本」（一三）
日本とシェイクスピア（一六）
日本に於ける英文法紹介及び研究の歴史（二〇）
俳句と英詩（二三）
生活、文化の英語史緒言の一節（二六）
反映としての英語史―英語史「第一部概觀」の結論―（二九）
言語起原の問題

山内晉卿

六朝時代の展望（一）
牟子問題の清算（四、五、六）
王鳴盛氏の佛典觀（一二）

吉町義雄

『物類稱呼』西國方言索引（一）
九州方言の特異性（二、三、五）
島津齊彬の『ローマ字日記』と長田穗積の『菊池俗言考』（七）
博多仁和加用語に現れた活用一段化趨勢（一〇）
日本語動詞現在時形態論（一五、一七、一九、二二、二四、二六）
九州方言四段・變格活用動詞分布相（二三）
紫雲鹿兒島方言文學四書抄（二八）
山人